

介護部会 横浜西ブロック会議 報告書

実施日 平成30年 6月 27日(水) 14:00~16:00

会議実施会場 介護老人保健施設 きららの里

参加人数 9施設 16名 参加 委任状 5施設
エスポワール和泉、きららの里、横浜いずみ老健、ゆめが丘
リハセンターさわやか、リハビリよこはま、けいあいの郷今宿
ナーシングピア横浜、ハートフル瀬谷 (順不同)

議事項目 介護報酬改定に伴う各施設の取り組み状況

内容

- A施設: 入所前後訪問数、相談員の人員を増加。
排せつ支援加算は今後、算定していく予定。
稼働率が95%と低いのが課題。在宅復帰率は40%
新入職員向けに統一したマニュアルの作成。
地方への求人をだしたことで法人で5名の採用であった(全て青森から)
- B施設: 低栄養リスク改善加算を算定。
身体拘束廃止委員会を3ヶ月から毎月開催に変更。
身体拘束実施のリスクが高い利用者进行评估している。
在宅強化型を算定。
- C施設: 胃ろう、吸引の研修に介護氏が参加している。
地域貢献に対する取り組みは骨密度を測定するものを外部に依頼し
好評であった(15名参加)
栄養、褥瘡、排せつの加算はまだ算定していない。
- D施設: 在宅復帰30%未満。
新たに入所前後訪問を行っている。
栄養、褥瘡は加算に向け準備中。排せつは具体的に進んでいない。
- E施設: 褥瘡マネジメント、排せつ支援加算を委員会中心に検討中。
今は基本型であるが、加算型を目指していく。
入所はお断りしない方針のため、在宅復帰できない方も受け入れている。
人材不足で介護助手を導入した。
- F施設: 褥瘡マネジメント、口腔ケア体制加算を算定していく方向。
- G施設: 排せつ、褥瘡の加算を算定に向け準備中。
看取りの加算も算定に向け外部の研修に参加している。
以前は強化型であったが、今は在宅復帰率が30%がやつの状況である。
法人の理念でセンサーマットの使用を止めることになった(拘束廃止のため)
地域貢献に対する取り組みは夏祭りに参加してもらったり、
ボランティアを1回/月施設に呼んだり、小学校の見学を1回/年している。
- H施設: 法改正のポイントを外部講師を招聘し開催した。

超強化型を算定し、排せつ支援、褥瘡マネジメント加算も算定している。
身体拘束の指針を整備。

4月より人材育成のチームを立ち上げた。

外国人介護士の採用。介護助手の採用。介護助手は今後も増やしていく。

I施設：排せつ支援、褥瘡マネジメント加算を算定。

低栄養リスク改善加算は算定に向け検討中。

退所前後だけでなく、入所前後訪問を積極的に行うようにした。

身体拘束の指針は整備中。

地域貢献として養護学校の職業訓練を年間を通して受け入れている。

次回開催について

日時 平成30年 9月 12日(水) 14時30分～16時30分

会場 エスポワール和泉

テーマ「介護報酬改定に伴う各施設の取り組み(その後の状況…)」